

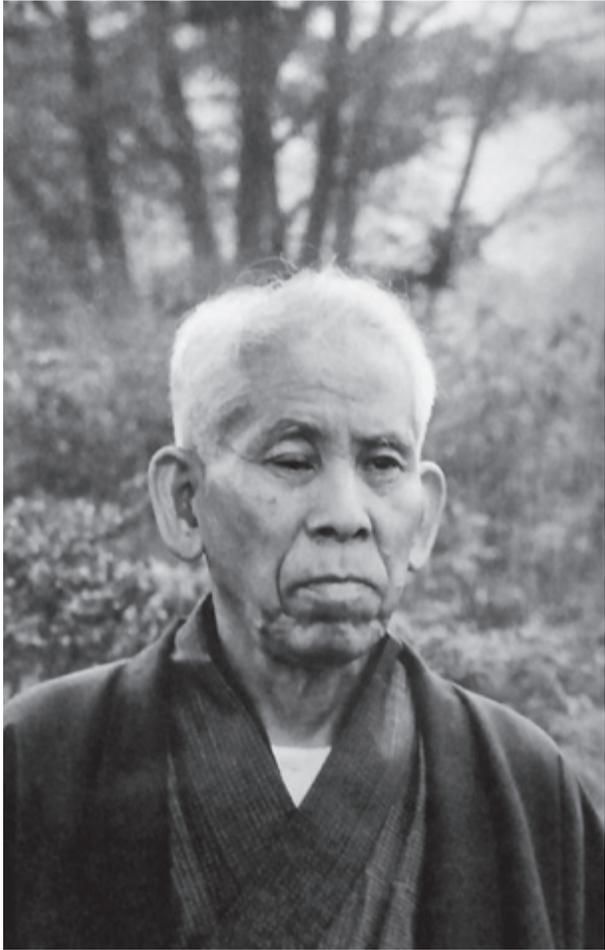
祝 明主様御聖誕百四十二年



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.628
12月号

教祖・明主様 (岡田茂吉師)



昭和二十八年十月八日
渡辺義雄氏撮影

— 明主様 —

真なる 医しの業を吾は今
世に知らしめて救ふべらなり
超人の 力に依らで如何にして
くづれゆく世を支え得べきや
人よりも 苦しき事あり人よりも
楽しき事あり我運命はも

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神言靈

寸言

他人のことなど決して言えるものではない。自分を考えてみれば、やっぱり同じことをしている。

人間は、なんでも自分でやっているつもりでいるが、神様のスイッチひとつで自由に操られる生人形だよ。
神の道具と心得よ。

親切の程度で、その人の値打ちがわかる。

時間を守ることは、人生学で一番大切なことだ。

成功の秘訣は、必ず成功しようと思意力であり、それに伴う努力である。

信者は、「ご神徳、ご神徳」と、まず第一にお金でもいただけることばかりをご神徳というが、何よりも、自分たちが平常より無病息災になるのが一番のご神徳である。

※寸言(意味：短い意味の深い言葉)



扇子 (手形)
教団所蔵

明主様の御逸話

明主様御在世当時、教師資格者、お側でご奉仕されていた方々が、直に体験された御逸話をいくつかご紹介いたします。

◎浄霊に関連して

ある時、奉仕者が貧血で倒れてしまいました。

明主様はその報告を受けてとんで来られ、抱きかかえるようにして浄霊をして下さったそうです。その人が気づいて拜見しますと、明主様が上からのしか

かるようにして浄霊をされ、『あ

あ、気がついたか。よかつたな。輸血してやったんだよ。』とおつ

しゃったそうです。貧血で倒れていた人は明主様のご浄霊によつて、たちまち元気にしていただいたわけですが、『浄霊によつて血液がドンドン増えてく

る』と、いつか伺ったことがありますが、その時の情景が判るような気がいたします。また、よくお側の御用をしていて、思い違いをしたり、失敗したりしますと、明主様は『失敗してだめではないか』というお叱りの仕方ではなく、『頭が浄化して

◎想念について

明主様は、あるお店のシュークリームがお好きだと聞いてから、私はいつもそのお店のものを

お届けするようにしていました。

ある時、いつもお使いをする人の都合で、別の人が代わってお届けしたことがあります。すると、明主様はひと口召上がつて、『これはいつもとは味がちがう』とおっしゃられたそうです。それは

どうということだろうと、早速調

べてみますと、そのお使いの人が不平たらたらでお届けしたという

ことがわかりました。そういう

想念が、明主様にはすぐにお分かりになったので、大変恐縮

したことがありました。(教会長)

◎誠と奉仕

明主様と来客とのご対談中、客の質問に、明主様は『私はすべてにおいて能率的ですよ。私は

は大勢の者を使っております。私が、みな自由にさせています。いま裏に山を作らせています

ど能率が上がっています。ありがたいことにみな信者ですし、第一、誠があります。いくら自由

にしておいても、やるべきこと

とはちゃんとやり、むしろ気の向いた時の仕事というものは、

普段の何層倍か早いもので、お互いに気持ちよくやれるし、しかし、どの場合でもというわけ

にはゆかないでしょうが、結局、信者はみな誠を持っていますか

ら、どんな目の届かない所においても、安心していられるんですからね。誠とは尊いものですよ。(中略) 信者ほどありがたいものはないですよ。』と、自慢げにおっしゃられました。(側近奉仕者)



庭木の手入れをされる明主様(昭和二十八年十月八日 渡辺義雄氏撮影)明主様が庭木の枝を剪定される様子を連写された珍しい写真です。

十月慰霊祭・大先生五十四年祭執り行われる

十月慰霊祭

去る十月十日、十月慰霊祭とともに、救いの光教団の基を築かれた初代会長の大沼光彦大先生の五十四年祭があわせて執り行われた。本部礼拝堂には大

先生の御写真とともに明主様御直筆の命名書が掲げられた。会

長の話では大先生の座右の銘も紹介され、懇ろなる祖霊供養の

祭典と共に大沼光彦大先生をお慕い申し上げる祭典となった。

また、本来の大先生ご命日に

あたる十月十八日には光守様お

出ましのもとに祖霊殿にて慰霊

参拝が執り行われた。この日は当時、大先生のお側で御用をされた

いた方も参列されて当時の思い出話を語られるなど厳かな中にも和やかな雰囲気の中になった。



祖霊殿では懇ろなる御供養の御祭りが執り行われた



礼拝堂には大先生の御写真と明主様より賜った命名書が掲げられた

十月慰霊祭・大先生五十四年祭執り行われる(続き)

会長のお話要旨



会長挨拶

今日は毎月の祖霊様の御供養の慰霊祭にあわせて救いの光教団の基を築かれた初代会長の 大沼光彦大先生の五十四年祭を執り行わせて頂きました。

大先生は昭和四十六年十月十八日に帰幽され、天界人となられました。

今では大先生との思い出を語られる方は少なくなりまして、多くの信徒より敬われ、慕われ、救われた方は数多くおられます。

救いの光教団の前身は神成教会ですが、明主様御在世当時は大成会、大成大教会、神成大教会と名称が変わってききました。大先生は常にその長として御神業にあたられ、明主様から直接いただいた神言霊を大先生は持ち前の熱烈な信仰指導で信徒、未信徒の区別なく導いてこられました。

大先生の座右の銘は「吾あるところ 必ず御守護あり」

「吾行ずるところ 必ず奇蹟 現わる」でした。 大先生が築かれた教団

大先生は非常に強い正義感をお持ちの方で当時の先生方、信徒への指導も大変厳しかったようです。しかし、その奥には明主様の教えを素直に受け止め実践していくことで御守護と奇蹟は必ず頂けるということ

を、大きな愛を持って教えられたのではないかと思います。

今日は礼拝堂に大先生の御写真と明主様より直々に頂かれた命名の書を掲げさせて頂きました。このことから明主様から篤い信頼を受けておられたこと



慰霊参拝を終えて光守様を囲んでの写真撮影



大先生ご命日の慰霊参拝にて献花を捧げる会長

令和六年第二回全国信徒代表会が開催される 今後の教団発展につながるきっかけに

去る、十月十二日、十三日

の二日間にわたり東京本部において「令和六年第二回全国信徒代表会」が開催された。

今回は全布教拠点責任者および信徒代表が一堂に会し、教団の現状と今後の方針についての報告および各布教拠点からの意見、要望への回答、質疑応答などが行われた。

開催初日、会長先達のもと開始参拝に続きご浄霊のお取次ぎが行われ、会議の始まりに際し、会長挨拶と信徒総代三名の挨拶があり、最初の議題である、教団の現状について

去る、十月十二日、十三日 翌朝の清掃奉仕では本部周辺から下北沢駅前、遊歩道にかけて数人のグループに分かれてゴミ拾いなどを行い、その後の朝食では秋の味覚に舌鼓を打ちながらの食事となった。朝拝を終えて二日目の会議が始まり、前日の光座の報告とともに質疑応答が行われ、信徒代表からの質疑に対して会長、責任役員からの回答およびコメントが伝え

られた。会議の終了参拝時には、光守様のお出ましを賜り一人ひとり光守様との御面会と握手をされて、思いもよらない出来事に礼拝堂は感動と喜びの場となり明るい雰囲気の中、会議は終了した。 今回の会議における貴重な意見、考え方が教団の進むべき道の糧となり成果につながるよう取り組みが必要である。

て会長より報告があり、光守様のご様子、信徒数の現状などの報告が行われ、教団の今後の方針については会長および窪田責任役員より説明が行われた。その後、四グループに分かれて報告内容に関連したテーマのもとに二回の光座会が行われた。一回目は信徒代表のみのグループで行い、二回目は布教拠点責任者が各グループに加わり活発な意見交換が行われた。その後の懇親会を兼ねた夕食では、専従者、信徒代表ともに席を同じくして互いの懇親を深



会議終了後に信徒代表お一人おひとりと握手をされる光守様



二日目朝の清掃奉仕の様子 (下北沢駅前)



グループに分かれての光座会の様子



会議の初めには教団の現状および今後の方針が伝えられた

令和六年第二回全国信徒
代表会が開催される(続き)

伊那水田は九月末の稲刈りを終えて、ハザに掛けた稲を数日間かけてじっくり天日干しを行い、稲からモミを外す「脱穀作業」を行い、全ての収穫作業が完了します。九月いっぱいまで天候は良好であったものの、十月に入り、数日間雨天が続いたこともあり作業を見合わせておりましたが、その後、天候も安定し、稲の乾燥も順調に進んだことから十月十四日、十五日の二日間脱穀作業を行う事が出来ました。作業は、脱穀から袋詰めまでを行うのですが、ハーベスターという機械の動きに合わせて行うことから稲刈りよりもせわしなく動き回る必要がありますが、ご奉仕の皆様とともに無事に作業が完了いたしました。その約一週間後の十月二十一日、今度は脱穀したモミ米を「糶摺り(もみすり)」して玄米にする作業と、今年の火水

.....
**岡田茂吉師
の
自然農法**
伊那水田 脱穀作業終わる
厳しい気象条件の中、昨年より収穫量が増加!
火水土の恵みに感謝!



ハーベスターを使用している脱穀作業の様子

土の恵み感謝祭にお捧げする「御初穂飾り」をお作りいたしました。糶摺りは精米に欠かせない作業なのですが、専用設備と技術が必要な事から専門業者に委託しております。昨今の後継者不足や様々な要因から、周辺地域の個人営業店が次々と廃業してきている中、幸いにも隣町に非常に優秀で細かい要望にも応じてくれる業者と出会うことが出来ました。これも皆様からの御守護と感謝をしております。
気になる今年の収穫結果ですが、水田によりばらつきはあるもの全体では昨年よりも百キロ近くの増収となりました。年々稲にとっては過酷な気象環境になりつつありますが、そのような中でも豊かな実りをお与え頂きましたこと、全ての作業を無事に終える事ができましたこと、大光明・明主様に心より感謝申し上げます。

.....



ハザから稲を下ろしてハーベスターにかけていく様子



.....
ます。また、今年の作業にご協力頂きました皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



袋詰めされたモミの重さで車体も下がる?



天気にも恵まれ手作りの料理で昼食

令和七年一月本部祭典のご案内

◎新年祈願祭 令和七年一月一日(水・元日)十時

◎慰霊祭 令和七年一月十日(金)十時

※各布教拠点における祭典日は所属教会までお問い合わせください。